



台湾228事件

駆け足・台湾5日間④

今回の台湾の旅は次女夫婦から始まる。義理の息子の父上は台湾の小学校で学び、「もう一度台湾に行ってみよう」と言われていたが、

今回、台湾の旅に誘うと「もう歳だから行かない」と断られた。

次女夫婦の一人娘が、先日、妻の誕生日を

家族がそろって祝ったが、台湾の話題が中心となる。そこで義理の息

子から「台湾228事件」の話を書く。恥ずかしながらそんな事件があったことを全く知らなかった。そして「漫画を中心とした

私は1945年の日本敗戦により、台湾は民主的な独立国家になったと思っていたが、事件の内容を知り、それが全くの間違いであることを初めて知る。

終戦とともに日本人は去り、かわって中国大陸から蒋介石率いる中華民国が入って台湾を治めることになる。当初、戦前から台湾にいた人たちはこれを喜んだ。しかし、汚職やワイロが横行し、人々の生活は苦しくなる。

当時の様子を表した言葉に「犬が去って、豚が来た」がある。日本人はワンワンとうるさかったが、家は守ってくれた。ところが、大陸から来た中国人は豚のようになつがと食べ、食べ終わると寝るだけの怠け者というのだ。

中華民国が台湾を接収して2年後の1947年2月、閩タバコを扱

う貧しい女性への取締官の暴行事件を契機に、住民の暴動が各地で発生する。そしてその取り締まりを口実とした弾圧が始まり、その死者は2万人を超えたという。

これが「台湾228事件」である。228とは1947年の2月28日に弾圧が始まったので、こう呼ばれるらしい。

その後、台湾の民主化は少しずつ進み、長い間封印されていた「228事件」の真相が明らかになる。そして犠牲となった2万以上の人たちの名誉が回復され、今日では各地に事件の記念碑などが建てられている。

次女一家は台北にある記念館を訪れたが、私たちはツアーのコースにそのようなものはなく、行っていない。

漫画「台湾228事件」を描いたのは、この事件で父を殺された阮・美妹(げん・みす)氏で、228事件記念館を設立したり、台湾人日本兵のニューギニアからの帰還にも寄与している。

台湾での会議で親しくなった台湾原住民出身の神父様が我が家に遊びに来られたことは書いたが、この本を読みながら日本統治時代の台湾の人々に親目的な人が多い理由がわかったような気がする。

歴史は真実だけを伝えていてではなく、権力者の側から書かれたものが多いことを忘れてはならないと痛感した。



事件をわかりやすく伝える

「漫画 台湾二二八事件」(まどか出版)の表紙